

(その 159) 多くの人の善意で青年の居場所を確保

昨年 12 月田町に住む H さんから大島 1 丁目の家に母が一人暮らしをしていて 1 年後に借地権契約の期限が切れます。家を処分して母と一緒に住む予定なので家を買ってくれる人を探してください。と相談に見えました。「家を買ってくれる人といっても」と考えた末に中央プランナーへ H さんと同行して売却の相談をしました。

1 月の相談センター運営委員会でそのことを報告したところ市会議員の片柳すすむさんから「青年たちの居場所の問題は深刻です。青年のたまり場にできるといいですね」との要望が出されました。

日本共産党の川崎南部地区委員会と相談し後継者づくりの居場所とするために購入しようと提案し、4 月の会議で決定されました。そのことを H さんと中央プランナーに伝え、急ぎ 21 人の賛同者の方に呼びかけ人になっていただきました。

まず 6 人の事務局で毎月 1 回議論を重ねて募金のスケジュールを作り、5 月中旬に呼びかけ人会議を開き、今まで民青同盟にかかわりのある人たちに声をかけ関係者を中心に“100 人委員会”を作り、広く訴えてゆくことを確認しました。

しかし資金の調達はなかなか進みませんでした。

7 月 7 日に民青(青年) 会館設立総会を開き募金活動を大々的に取り組むことを決議したことが募金応募者の飛躍につながり無事に、11 月 5 日地権者と借地権譲渡契約を結び 19 日に売主と売買契約し、25 日に引き渡されました。売主さんから「相談センターのおかげで買い手が決まり夢を見ているようです」とお礼に見えました。

12 月 15 日午後賛同者全員に呼びかけお礼を兼ねて、民青(青年) 会館開設記念パーティーを開くことになりました。